

噫妖雲は

(昭和十年寮歌)

川村真君 作歌

荻野辰夫 作曲

一

噫妖雲は狂へども
迪を恵めし若人等
巍然四寮に立籠もり
覚醒の歌高誦ふかな

二

三年の契浅からず
爛漫春を欺けど
銀觴口辺にうつろへば
名残の春を惜むべし

三

羊の群は去り行きて
角笛遠くこだましぬ
夏草深き丘上に
月三更の影冴ゆる

四

不壊の生命と輝きし
緑葉漸く紅葉して
今玲瓏の谿谷に
若き男の子の寮歌消ゆる

五

颯々の風音寒く
橇の音孤弦の月を呼ぶ
窓に佇む多感の遊子
今宵何をか思ふらん

六

月影淡き楡の陵
記念の祭終るなり
篝火焚きて我は今
静かに宵を誦はなん